

主小糸先生のご長寿をお祈り致します。

次は二重峠。細川公の参勤交代の峠道、殿様は御籠で悠々、家来の苦勞のほどが偲べれます。五日間かけて大分県の鶴崎に着き、船で大阪に渡ったことなど、初めての勉強でした。古の人々の偉大さに敬服致しました。

最後は大観峰、阿蘇谷の眺望が素晴らしく、阿蘇五岳が釈迦の寝姿であり、涅槃像のように見えると云うことです。見渡す限りの大草原はスキが群生し、穂が白くなり始め、冬の近しの感を抱かせました。観光客があふれ、お土産品店にも活気がありました。

歴史と文化を紡いで来られた阿蘇の人々との出会いや、先導して下さった渡辺先生、役員の皆さんのお世話で、秋の一日を大変楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。

阿蘇神社社殿と阿蘇大宮司

阿蘇神社説明書より 研修部

阿蘇神社社殿

社殿は度々の天災で焼けましたが、江戸時代末の天保から安政年間にわたる二〇年余の歳月をかけて、現在の社殿が建立されました。白木の総ケヤキ作りで見事な彫刻がほどこされています。

楼門の規模は広壮で神社建築には珍しく、二層の屋根になっています。また両脇門があつて神幸門・還御門といふ平常は閉ざしているが、御田植祭の神幸の時のみ使用します。拝殿・翼楼などは昭和二十三年の建築です。

阿蘇大宮司

阿蘇大宮司家は御祭神建磐龍命より綿々、累世相次ぎ、現大宮司は九一代目にあたり、皇室に次ぐ旧家として世に知られています。特に中世（鎌倉時代）以降は、肥後の国の大半を領有して皇朝のため尽すいし、御綸旨（天皇の意思を伝える文書の一）、軍忠状などの古文書も数百通保存しており、足利尊氏の軍勢催促状「もとどりぶん」などの貴重な宝物も宝蔵されています。